家庭菜園 Q&A

問題解決!

南部営農センター 園芸課
検校 哲也

Q1 畑の雑草を取るのに、種類によって除草の方法が違うんですか?

A1 雑草は春先の小さいうちに取っておくと、あとがずっと楽になりますよ。

春は芽吹きの季節、雑草も出てきます。種から、根や根茎から、気温の上昇とともに、雑草が目立ってきます。

野菜を作るために耕すと、眠っていた土の中の数えきれない雑草の種が地表近くに出てきます。日光が届くようになって芽を出してきます。

出芽直後なら、まだ根の張りも少なく、大きく茂っていないので、草取りも楽です。また、花の咲く前に除草すれば、種を増やさずにすみます。

●雑草に合った除草を

地上部を切り取れば、それですむ草もあります。なかには、地下茎を伸ばす草、根の切れ端から再生する草もあります。

タンポポなど多年草の雑草は、同じ株が何年も生き続けます。冬の間は地面に放射状に這いつくばったロゼットで残る草や、地上部は枯れても地下部だけで生き延びる草もあります。

ハルジオン

ヨモギ、ハルジオン、ツメクサなど、多年生雑草は、三角ホーやスコップで根こそぎ掘り上げます。特に、スギナは地中深くに根を張り巡らします。スコップで掘り上げて、ていねいに根茎を取り除いてください。

ホトケノザ、ナズナ、ハコベなどの一年生雑草は、種から育ち、花を咲かせて種を残して枯れてしまいます。

多年生に比べると、根が細く張りもさほど大きくありません。また、土の中に多少根が残っても再生することはまずありません。抜き取るだけで十分です。

ハコベ

●除草のタイミング

春に発芽した雑草は、すぐに除草せず、ある程度出そろうまで待ち、草丈が5~10㎝になってから抜くと楽です。次から次へと発芽しますから大変ですし、そのたびに畑に入ると土を固めてしまいます。

●根元から刈り取る

メヒシバやエノコログサ、スズメノカタビラなどのイネ科の一年生雑草は、生長点が地ぎわにあります。そこから茎や葉が出てきます。

一年生ですので根を残してもかまわないのですが、生長点を残すと再生します。鎌を土の中に差し込んで、生長点ごと根元から刈り取ります。

一年生雑草の場合、土の中に根を残しておくと微生物のエサになります。根が分解されたあとには空洞ができて、通気性と排水性のよい土になります。

エノコログサ

●黒マルチが便利

発芽させなければ、雑草は生えません。黒マルチを張りましょう。

光を通さないマルチは、雑草の発芽・生長を抑えます。乾燥防止や雨の跳ね返りを防ぐ効果とともに雑草対策に効果大です。

●雑草の生き延び戦略

雑草に限らず植物は生存競争に勝ち抜くため、さまざまな工夫をこらしています。

雑草の発芽は時期を選びません。一度に全部が芽を出すと日照りが続いて全滅するかもしれません。だから、順番に時期をずらして発芽します。いつまでたっても次から次へと生えてきます。生き残るためです。

スズメノカタビラは、草丈を縮めて花を咲かせます。芝生の中に生える雑草です。芝を刈ると、刈った高さで花をつけます。でも、草取りをしてない畑では大きく育ってから花をつけます。

置かれた環境に合わせて、生態を変えて子孫を残そうとします。雑草魂とはこのことでしょうか。

スズメノカタビラ

オンライン農業塾はじめました!
▼動画はコチラ▼